

1984. 2. 10

談話会通信

才44号

東京蜘蛛談話会

ジョージ・オーウェルの予見した1984年となりました。その1984年は、1月1日から日本列島はゆれ動がされまた。また、例年にない大雪、そして異常低温の日が続いておられます。どうやら今年も、過去の年にもまして、激動の一年となりそうです。エキゾチック Japan ではなく Frozen Japan。クモも大変な年とおもっていることでしょう。おぼろしく、くわくわくお体に氣をつけて、太いクモの世界をのぞいてみましょう。ここに、エキゾチックなクモの世界が……。

・住所変更

近藤昭夫 〒222 横浜市港北区岸根町704-7

・新入会員

浜口啓一 〒254 平塚市浅間町12-41.
平塚市 博物館内。

観察・採集会のお知らせ

2月 19日 (日曜日)

場所：五日市、広徳寺周辺

集合場所と時間：武蔵五日市駅前

午前10時 (雨天決行) (国鉄五日市線)

雨具・お弁当などお忘れなく。

{ 問い合わせ、連絡は事務局まで }

現在、兵庫教育大学大学院
に留学中の梅林よしひり。
2つの新聞記事をいたにき
ました。

次のような記事を見つけたので、遅くなら
りましたがご送ります。

1983年9月19日(月) 毎日新聞p.9の「文
化」欄のものです。

蜘蛛にそんな知恵が

畑山 博
はたやま ひろし

家の裏手の山道を歩いている、ふしぎな
ものを見つけた。小指の爪ぐらいの大き
さをした小石なのだ。それが、道の真中、ち
ょうど目の高さほどのところに浮かんで、
ゆっくりと揺れている。

森の中には奇妙な上昇気流があって、木
の葉とか鳥の羽とかを、そんなふうに静か
に宙に浮かせることがあるのは知っている。

が、小石というのは初めてだ。私は、び
っくりして目をこらした。

目が馴れると、謎はすぐに解けた。蜘蛛
なのだ。一匹の蜘蛛が、道脇の木の幹と、
道の上に覆いかぶさっている枝と宙に浮い
たその石の三つを支点にして、巣を張って
いるのだった。謎は解けたが、しかし私の
感動は萎えなかった。

蜘蛛がそこに巣を張るためには、地べた
まで、あまりに長すぎる支えの糸を下ろさ
なければならぬだろう。それに、そうす
ることは、絶えず通行するものたちに壊さ
れる危険がある。

そこで蜘蛛は考えたのだ。宙吊りの重石。
たぶん最初は地表にあった小石を背負って、
木に登って、糸にそれを絡めつけ、下ろし
たのだ。

蜘蛛にそんな知恵があるのだということ
は、私の愛読するフーブルの本にもなかつ
た。私は私だけの発見に有頂点になって
しばらくその巣の主の若い蜘蛛の、きびき
びしたまぶしい動きを見上げていた。

(以下は、家・家族に関する文がある。)

もし、地の中をのぞくことができたら、
あの森の中の蜘蛛のような、身ぶるいす
くらい新鮮な自然の知恵を、私に見せてく
れるのだろう。

以上の文ですが、皆さんいかがですか？
文中の「背負って、木に登って」というと
ころですが、彼の観察が正しければ、蜘蛛
は実際にどのような行動をとったのでしょ
うか？ おもしろい問題ではありませんか。

(梅林 力)

1983.10.19

書 目 録 欄 門



「らの生命の火を燃焼しつつ
す女郎蜘蛛の産卵⇒「みんな
生きなければならぬ」から

「生物みなトモダチ」の
は「みんな生きなければな
らない」ヒト・ムシ・ト
リ鳥獣植物で、10リ
ラ、八十分の伊島、東京世
田谷区で有機
農業を営みす
る大平博四郎
「友達の生活
と、その精神世界」を
題した新聞調、ユ・セ
「ふたに」の「蜘蛛」を
人間として生きるため
の条件として、蜘蛛、草
写、鳥の羽、貝殻、石、
らで制作した「大平」を
もとに、梅林よしひりに
構成した。「梅林よしひり
「友達の生活」は、次は
「友達の生活」を題して、
写会は、十一月後半、時
から東京山手区に、
写会、時、時、時、時、
写会、時、時、時、時、

クモの知られざる防御システムを新発見。

アメリカ、コーネル大学の生物学者トーマス・アイズナー、スコット・カマジン氏の両氏が、ある日クモの巣に、毒を持つヒゲトカメムシがひっかかるのを見た。クモはカメムシにとびかかり、糸でくるんで殺そうとした。ところがカメムシが一瞬早く、クモの片足をつかまえて刺した。

すると、驚いたことに、クモは刺された足を自分で切り離し、巣の中央へ逃げ帰ったのだ。そこで両氏はある実験をおこなった。まずミツバチとスズメバチの毒を使い、①痛みを感じさせる上に毒性がある、②痛みは感じるが毒性はない、③痛みも毒性もない、という3種類のものを用意した。これをクモの足に注射したところ、①にだけ

反応して、足を切り離したのである

かつてゴキブリが有毒物質に対して興奮する、という報告があった。しかし、下等動物が毒のある物質に対して、防御行動をとることがわかったのは初めてのことで、「人間にも痛みを引き起こす物質に対して、クモが反応するとは注目すべきことだ。これは、下等動物でも高等動物でも、毒を感知するメカニズムは相似したものであること、下等動物でも痛みを感じることができることを示唆するのだ」と両氏は語っている

Quark
"83. 11月号
P145リ

近の記事は、
毎杯さんより
いたいたむてす
ほか。

「獲物の虫に
逆しやう虫。
その痛み
反応して足を
自ら切りよた
クモ」の。
下真 (E.ドレ
yagipe sp.)
かひこいまし
下が 省略
いたした。

たいし
興味深い
ことおぼしき

会計より

口座番号

横浜D-1460番

受領報告 (敬称略)

57年度 .. 近藤昭天
山川守

58年度 .. 赤口智一
成合智美
高野伊二 (500)

59年度 .. 野戸章
成合智美
古内栄一 (500)

{ 会費、納金 }
下はのこ

会計についての御質問・

御意見は会計まで

〒210

川崎市、川崎区 観音
1-14-15

高橋 登

TEL. 244-288-2921

(9時～PM 7時～11時に限る) 55)

合同例会の報告

1983年12月4日、文在根氏の
の歡送会を兼ねた合同例会が
目黒区孫五氏会館で2日間の
入りました。大阪からは八下昭元氏、
長野からは千原元吉氏が、みえは
50名近くの方が参加しました。

講演は13題ございました。
文在根氏の特別講演をはじめ
八下昭元氏の講演、藤野元吉の
トビズカガシについてのもの、石井元生
のマツギヤステについてなど、ケ・
ムカシ・ヤステ、分館・生活史・
民俗学など、実に variety に富
んだものであります。

千原元吉の、11つものすばらしい
スライドをつかた、眼帯をひきか
ははききい講演、八下昭元氏の
分館化のむかしのこについて
の講演、斎藤博一郎先生の
ネコハエトリの生活についての熱弁
は、特に印象に残っています。

講演のあとには、文在根氏の
歡送会を兼ねた懇親会を
おこなわれました。ビールパーティーのよ
うな感じで、アルコールの量は
それほど多くはございませんでした
が、また、講演とは、ちがった
意味で、いさぐちに有意義なもの
でした。

最後に文在根氏の「一匹のフエと
人形」、一匹のフエをよく知ら
なければ、フエと人形、自然と人形
との区別が、いさぐちいさぐち
ないで済む、ということ
記しておわりといたす。(k)

今年度活動計画

○ 例会・総会

4月15日(日)

目黒区大橋区民会館

○ 観覧・採集会

5月13日(日)

7月15日(日)

10月14日(日)

1985年2月17日(日)

川崎市 杉形山

小田急 向ヶ丘遊園下車

実行委員：井上房枝

○ 合宿

7月28日(土)~30日(月)

千葉県安房川湊

千葉県県民の森

実行委員：浅間茂

○ 合同例会

11月18日(日)もしくは

11月25日(日)の予定

4月15日の例会総会について
は同封の別紙をごらん下さい。

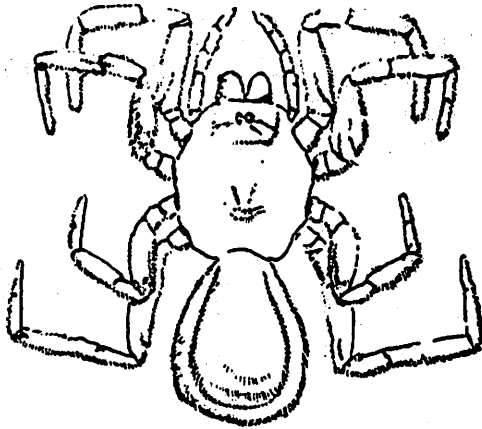
新発見の小さなクモは超ミニ・グランチュラ

クモは世界中で3万種ほどもあり、もう新種の発見はないのではとされていたが、中南米パナマの森林の土の中から新たに発見され、クモ学者を喜ばせている。

このクモはたった100分の3インチ(0.762ミリ)しかないが、奇妙な点がたくさんある。

まず、こんな小さなクモなのに、全体の姿や上アゴ、キバの特徴が、世界最大のクモ、タランチュラ(体長30センチ)とそっくりなこと。大きさの点をのぞけば、分類上同じ仲間に見えるといつてよいほどのだ。

つぎに、ふつうクモは6~8個の眼をもっているのに、この新種のクモには2個しかない。



さらに、肺をもたず皮膚呼吸している点も、他のクモにはない特徴である。

餌はトビムシやダニの類と推測されている。トビムシは0.5ミリ前後だから、こんな微小生物の世界にも、厳しい生存競争の疑があるようだ。

そんなわけで、発見者のアメリカ自然史博物館研究員ノーマン・プラトニック氏も、「これまで100種以上の新種を発見したが、今回は特に楽しい経験です」と、興奮している。

↑ Quark '83. 10月号
p75リ

この記事は、
梅林さんよりいただきました。

・本師

〒191 日野市 多摩平 7-15~9
菅嶋 泉 方 tel. 0425-81-7128

・事務局

〒272 市川市 菅野 3-1-6
あすろ荘
加藤 輝代子 方 tel. 0473-25-4466

・会計

〒210 川崎市 川崎区
観音 1-14-15
高橋 登 方 tel. 044-288-2921
口座番号 横浜 0-1460番

・Kishidaia 原稿受付

〒357 飯能市 本町 5-4
嶋田 順一 方 tel. 04297-3-3022

・通信原稿受付

〒343-01 北馬師部
松沢町 3385
鈴木 勝浩 方 tel. 049-71-2984

東京蜘蛛談話会

No. 44

1984年 2月 10日 発行